

# 有核巨峰房きり講習会資料 (30)

J A中野市営農センター

例年の傾向として・・・

貯蔵養分の不足

- 早期落葉、成らせすぎ等で樹に負担がかかると花芽の充実不足・結実不安定となることがある。

花房を観察し花房の充実が悪ければ、ショルダー除去・花房整理をしましょう  
(養分を効率的に使用)

## 1. 葉面散布剤について

目的	薬剤	効果	使用倍率
結実確保	マルポロン ヨーヒ B5	ホウ素補給による 花粉管の伸長向上	800~1,000 倍
良品質化	グリーンデイズ	苦土、ホウ素、マンガン補 給、葉の健全化等	1,000 倍
苦土補給	ビックマグ	苦土補給=葉の健全化	1,000 倍
結実確保 (強樹勢)	ビープロッサ	ホウ素補給、リン酸補給に よる樹勢抑制と結実確保	1,000 倍
花粉増量	花果神	アミノ酸による花粉増量	10,000 倍
樹を落ちつかせる	メリット赤	リン酸による 窒素吸収抑制	300~400 倍
	スイカル	カルシウムで生育抑制	500~700 倍

上記葉面散布剤は状況を見ながら開花期までに 1~3 回散布する (定期防除混用可)

## 2. 今後の管理について

### 枝の誘引と切除

誘引を実施し、できるだけ棚面を明るく保ち、結実確保に努める。

種ありは満開後に枝を切除。種なしは随時切除。早期実施により追肥の代用

### かん水

種ありの開花期のかん水中止 (畑かんは止める)

落花後直ちにたっぷりかん水し、敷きわらの早期実施 (1 回目は地下深くまで浸透)  
満開 40 日間 (例年 7/25 頃) はかん水を実施すると粒肥大良好

**追肥** 弱樹勢樹は早期に実施

満開期に『追肥グリーン 1 袋 (またはノルチッソ)』【早く効く!】

10 日後に『プレシャス有機 (ジャンプ 6 号) 1 袋』施用【ゆっくり長く効く】

追肥はこまめに! 回数を分けて! 樹冠下 2.5m 位の範囲に施用

### 摘房

結実確定後数回に分けて直ちに実施。早期実施により樹勢回復。粒肥大向上に有効

### 3. 房きり方法について

有核巨峰は 350g パックを目標とする

時期 開花始めから満開時（11 枚～13 枚頃）段数が確実に確認できてから

房切り目安	開花 1 週間前	開花始め	満開時
長さ	4cm	5cm	6～7cm



房の支梗（横枝）が短く詰まっている部分まで指で切り下げる（上げる）

①支梗が水平になっている部分まで落とし、房尻は 4・5 粒軽くすり潰す

②例年肩のボリュームが少ない園は 1・2 段上を残す

※強い枝は 2・3 房残す。※弱い新梢（20 cm 以下）は早めに花房ごと切除する

※日当たりの良い花房（第 2 花房）を中心に房きりする樹勢が強い樹・若木は満開頃に房きりを実施する

### 4. 結実確保に向けての管理

①落下期までに樹勢を落ち着かせる（フラスター散布、花を沢山咲かせる等）

→開花前に樹勢が強いと根・葉で作られた養分が一気に新梢先端部へ吸われ（移動し）、一時的に花穂の養分が新梢に奪われ、養分欠乏（花振り）が生じる

・フラスター散布により 14～21 日間の生育抑制効果あり（濃度・気温により変動）

・花をたくさん咲かせる（房きりを遅くする、1 新梢 1 房のみ房きり）ことにより樹勢が一時的に抑えられ結実安定しやすい

②土壌について

→土壌中・ぶどうの体内にホウ素が欠乏し、開花前に乾燥が続くと水分不足と同時にホウ素欠乏が生じる。弱い花を強くさせるためにもマルポロンの散布（2 回）

・花果神の散布により花粉の活性化に期待

③開花中の低温

→気温 13℃以下では花粉管が伸長せず、不受精となり単為結果が生じる

・棚面を明るくする・花穂の養分（アミノ酸）が溜まっていると寒さに強い傾向。